



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 235
October
2012

トピックス

関係機関との防災協力推進

第9回センチネルアジアシステム操作講習会への参加

ADRC客員研究員レポート

『ハンガルジャン・アルミネ（アルメニア）』

『リュウ・ナンジャン（中国）』

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2012

●関係機関との防災協力推進

第9回センチネルアジアシステム操作講習会への参加

2012年10月1日から5日にかけて、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、インドネシア技術評価応用庁（BPPT）、その他関係機関の共同開催により、ジャカルタのBPPTにおいて、第9回センチネルアジアシステム操作講習会が開催されました。アジア太平洋地域諸国の宇宙関係機関の担当者や関連機関などから20名以上が集まりました。アジア防災センター（ADRC）は、この講習会に講師として参加しました。

ADRCは、この講習会で「ADRCの活動」「センチネルアジアの活動におけるADRCの役割」「センチネルアジアステップ3に向けての防災関係機関の要望」と題した3つの主題の講義を行いました。



BPPTでの講義



ボゴールでの現地踏査

●ADRC客員研究員レポート

ハンガルジャン・アルミネ（アルメニア）

私はアルメニアから来たハンガルジャン・アルミネと申します。私は1998年にアルメニアの非常事態省国立地震防災研究所（NSSP）へ入職し、現在は観測ネットワーク情報部で主任専門官として働いています。ここでの主な業務は、地震観測ネットワークから得られる様々なデータを蓄積するためのデータベース開発などです。私は日本での滞在中、データ分析や評価などについて学びたいと考えています。

アルメニアは、黒海とカスピ海の間位置する陸地に囲まれた国で、グルジア、アゼルバイジャン、トルコ、イランと隣接しています。アルメニアでは、地震や地滑りなどの自然災害が多発しており、また交通事故などの人的災害なども多く発生しています。その中でも地震は大きな課題となっており、多くの人命や財産を脅かしています。

地理的にはアルペン-ヒマラヤおよびバルカン-カルパト地震帯に囲まれており、地震リスクが高い地域に位置しています。アルメニアにおいて、歴史上最も多くの被害をもたらした災害は、1988年12月7日に発生したスピタク地震です。この地震では、アルメニア領土の40%にあたる地域が被害を受けました。人的被害としては、約514,000人が家屋を失い、約20,000人が負傷し、約12,500人が病院に収容されました。死者数は約25,000人にも上りました。

この大地震の後、1991年にNSSPが設立されました。NSSPは国内における地震のモニタリング、地震及び地震リスクの評価、地震リスクの減少を目



続き

的に活動を行っています。また、NSSPは設立以来、地震に関するリスク評価やリスク軽減に取り組むADRCなどの国際機関と連携し、活動を推進しています。

日本での滞在期間、私は他の客員研究員と共に多くの研究機関や政府関連機関を訪問したいと思います。例えば、1995年に発生した阪神・淡路大震災からの経験や、他の自然災害について、そして、日本政府が地震時に対応した災害管理についても学びたいと思います。客員研究員プログラムを通じて得られる防災に関する知識は、NSSPの担当者を通じて同僚に報告し、適宜共有したいと考えています。

最後に、このような機会を頂いた日本政府並びにアルメニア政府に感謝申し上げます。

リュウ・ナンジャン（中国）

私は中国から来たリュウ・ナンジャンと申します。中国では中国民生部の国家減災センター（NDRCC）で働いています。NDRCCは2002年に設立され、技術提供や情報サービス、研究、訓練を実施する他に、防災や救助活動に関する意思決定を行う省庁への支援を行っています。

中国は世界的に見ても自然災害が多発する国の一つです。理由としては、広大な国土、それに伴う複雑な気候分布や地形起伏に関する要因、自然災害に対して脆弱な環境が多い点などがあげられます。中国の都市の約70%、そして人口の約50%は、気象災害や地震、海上災害などの影響を受けやすい状況におかれています。特に、2000年以降は自然災害による年間経済損失は、GDPの5%から7%を占めており、死者数は数千人規模となっています。このように、中国では自然災害の発生が持続的な社会および経済発展の大きな障害となっています。

このような自然災害による被害を軽減させるため、中国は国家防災委員会（NCDR）を設立しました。NCDRは、自然災害のための政策、規制、ガイドラインや実施計画などの策定を行っています。また、主要な自然災害に対する防災活動、地域活動などについても実践しています。

近年、中国政府は防災システムの構築を進めています。まず、防災を国の開発計画に組み込みました。ここでは、中国政府が災害リスクの軽減を、中国における国および地域の社会経済開発計画の最重要項目として位置づけました。さらに、緊急対応システムの構築および改良も合わせて進められ、国の「第12次防災5カ年計画」も策定されました。

第二に防災への取り組みの推進とともに、中国政府は災害の情報管理についても整備を進め、中国政府は2008年に自然災害情報管理システムを構築しました。

最後は災害対応管理の強化です。中国の国務院は「国レベルの緊急時対応計画」の策定を行いました。また、中国民生部は「災害救援のための緊急時対応計画」と「突発的自然災害のための業務手順書」、そして「緊急災害救援のための業務手順書」を作成しました。合わせて、省、市、県レベル及び鎮（町）、工場、学校における緊急対応計画についても作成しました。

私は今回の研修を通じて、日本における地震や台風に関連する災害リスク評価などについて学びたいと思っています。また、災害リスク指数システムや、リスク評価モデルなどについても関心があります。合わせて、法律や制度を通じたコミュニティレベルにおける減災および防災活動についても調査をしたいと考えています。



問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。